通巻 第58号
平成28年 3月

佐倉市Ｖ連協だより

【発　行】
佐倉市ボランティア連絡協議会
【連絡先】
佐倉市ボランティアセンター内
℡:043－484－6198
http://www.sakuravren.com/
E-mail　info@sakuravren.com

２月 11 日（木・祝）開催の「第 34 回ボランティアのつどい」に多くのご参加を得ましたことに驚きと共に、ご協力いただきました皆様に深く感謝いたします。「ボランティアのつどい」をＶ連会員同士の交流と研鑽の場にと各地域で移動しての開催の２回目、このように多くの会員外のご参加がありましたことは、Ｖ連が推進してきたボランティア同士や地域の福祉に関わる人同士をつなげるそんな役割を少しずつ皆さまに認めていただいたのではないかと思っています。

また、１月 17 日（日）開催の第３回運営委員会では順天堂大学准教授であり「ともに歩むふくしプランⅡ推進委員会」委員長の松山毅氏をお迎えして、『地域の支えあい・助け合い　今求められているボランティア活動』をテーマにお話いただきました。参加された方からの多数のご意見や地域のニーズとを合せ、会員のための、そして会員自身が作り上げていくＶ連であるように取り組みます

佐倉市ボランティア
連絡協議会
会長　寺田純子

第１回運営委員会（総会）のお知らせ

日時：平成 28 年4月24日（日）
午後1:30～3:30
場所：西部地域福祉センター
内容：①平成27年度活動報告　決算及び会計監査報告
②平成28年度活動計画及び予算案
研修会:『地域包括ケアシステムって何だろう？要支援者の訪問介護と通所介護はどう変わる？』
～今後の佐倉市の取り組みについて～
講　師:里吉奏子さま（佐倉市社会福祉部高齢者福祉課生きがい支援班）
※実りある研修会にするために、疑問・質問等ございましたら、事前にご連絡いただけますようお願いします。

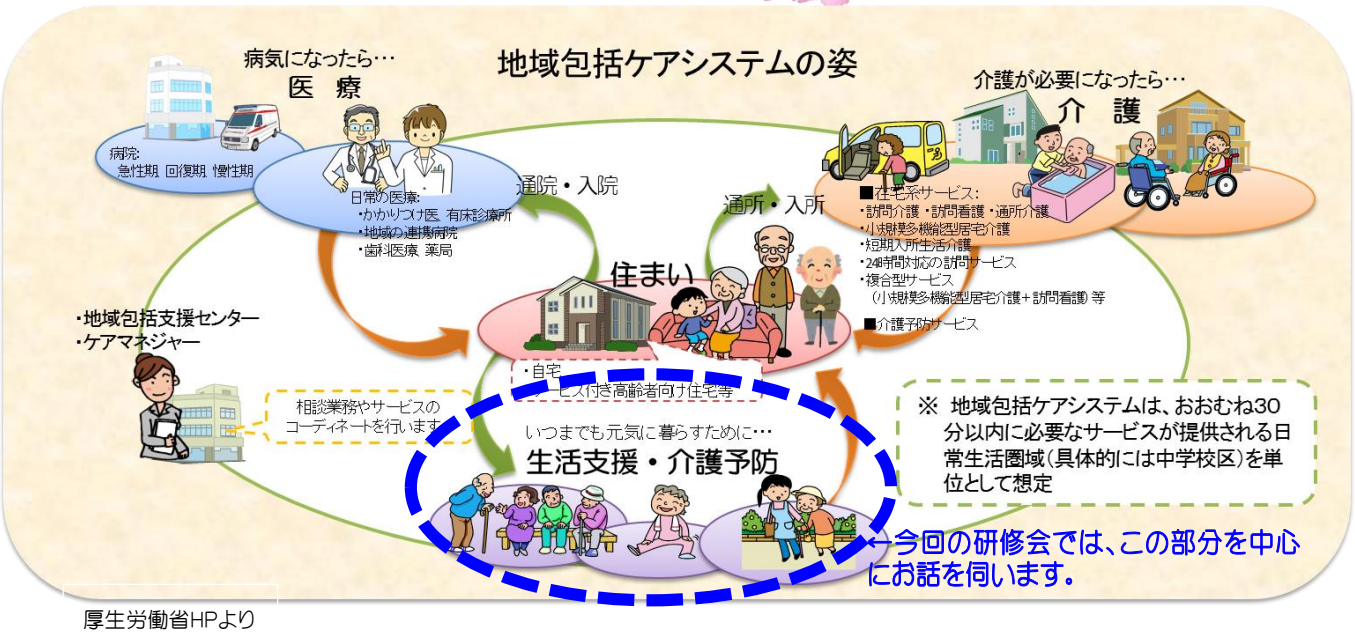
使用済み切手収集の会

毎月第３月曜日 10 時より 11 時半に、約 15 名の会員が集まり、使用済み切手を整理しています。

平成 27 年度は、約 18 ㎏の使用済み切手を業者の方に買っていただき 7,200 円になりました。

売上金は、一定額集まりましたらボランティア活動等に活用します。

ご協力ありがとうございました。



厚生労働省HPより

第３回 運営委員会報告　（出席者：39 名）

日　時:１月 17 日(日）午後 1:30～3:30
会　場:ミレニアムセンター佐倉　第３・４会議室

第１部

＊平成 27 年度 9 月～1 月活動報告
＊「第 34 回ボランティアのつどい」お知らせ
＊「第 7 回ともに暮らす地域交流会」お知らせ
＊「はらっぱ」第 42 号報告（平成 28 年2月9日発行）
＊その他

会議の様子

第２部　講和　講師：松山毅先生

テーマ『地域の支えあい活動　～地域を豊かにするボランティア活動～』

① 支えあいとは？　お互いさまの関係・相互依存です。
② ボランティアとは誰のためにしているものでしょうか？
　大多数の人は、「自分のため」と答えます。もう一つ、相手に喜んでもらえたとか社会の役に立ちたいという（利他性）がないと続けられません。
③ 地域福祉活動計画とボランティア活動
　自分たちのボランティア活動の社会的意義を再確認し、地域の中で活動している団体同士がつながり、協力しながら住みやすい暮らしやすい社会を作っていくことを意識してみて下さい。

ワークショップ
「みんなで考えようボランティア活動」（皆さんの意見の抜粋）

グループごとに発表

★ボランティアとは何か、何のためにボランティアしているのか

- 自分のため⇒地域のため⇒社会のため
- 粗大ごみになりたくない。
- 傾聴ボランティアとして、お年寄りを元気づけている。
- 障がいある方でもボランティアできる。
- 法の執行者である行政のすき間をうめる。
- ボランティア仲間に支えられて、続いていると思う。

★つながり、支えあい

- 自治会をやめる人が多い。→どんどんおつきあいが希薄になっている。
- 一斉に入居という新しい町に住むことに始まり、町会では順に回ってくる当番の時以外は、近隣の方とも話す機会がなかった。長く住んだ割には何もわからない状況。
- 誰でもボランティアする人、される人になりうる。
- ボランティアは相互のためになるとは思わなかった。老人ホームの車いすの掃除はとても喜ばれている。
- ボランティアをされている認識を持つ。
- ボランティア活動は、支え合い活動である。自治会・町内会、地区社協、協議会などの事業　どう違うの？
- 支えることばかり考えていましたが、支えられることも考えてみた。
- 地域でのお互いさま→日常生活の中で無意識のうちに助けあっている
- 活動していて支えられていると意識していないが、笑顔が返ってくればそれが私の支えになっている。

★コーディネート

- サポセン・ボラセン　交流会でつなぐ。

★現在のボランティア活動の課題は

- 若い人たちのボランティアにふれる機会が少ないように感じる。
- 20 年以上、会が活動しているが、動ける人が減っている。若い人に参加して欲しい。新しい人が入ってこない。
- 「たまり場」を月２回。来る人が固定化。

第１分科会『地域の支えあい』

地区社協やボランティアグループの活動は、生活に密着したものだと感じました。昔だったら近所の助け合いを、今はボランティアの人たちが制度では解決できない地域をつなぐ役割をしています。経験豊富な人たちがお互いさまで生きています。今やれることをやろう。来た人をお客様にしない、やってもらう、住んでいる地域で実践する。力強さを感じました。（順天堂大学准教授・松山毅先生「まとめ」より）

開会式の様子

佐倉城の辺地区社会福祉協議会
虹のサービス　鳩谷定夫さん

佐倉東部地区社会福祉協議会
真部武美さん

内郷地区社会福祉協議会
櫻井肇さん

ローズクラブ
浅野訓子さん

ボランティア桜
杉本奎子さん

かぶらぎボランティア
篠原知恵子さん

意見交換・情報交換の場から

第34回ボランティアのつどい テーマ『見直そう 身のまわり 地域の支えあい』

コマまわし（人づくり街づくり環境づくり）

みんなで挑戦！印旛沼クイズ（佐倉印旛沼ネットワーカーの会）

ネイチャーゲーム（さくらネイチャーゲームの会）

みんなで体をほぐしましょう！

順天堂大学
安藤綾乃さん
北岡未由さん
中央後方
手話通訳の方

グループごとに新聞の輪くぐり競争。あけた穴が小さくて、早い方が勝ち！

第2分科会「若い力」

サクラ･スマイルサービス
千葉　茂さん

SAKURABILITY（サクラビリティ）
鳥海孝範さん

公益社団法人佐倉青年会議所
三橋健司さん

左から、佐倉西高校の宮内瑞嬉さん、小澤美咲さん、青木睦樹さん

「若い～」は実際若いのは、佐倉西高校の生徒さんくらいかな…。若い人はいるだけでボランティアになります。また、色々なコミュニケーションツールを使ってつながる方法があるなぁと。ボランティアは自分のためでもありますが、参加すれば社会との接点になります。人に言われたり友だちについて来ただけとしても、参加することに意義があります。人との出会いでいろんな人の気持ち、“悲しみ”　”苦しみ”を感じることができます。学校や会社と違う社会との出会いや自然とのふれあいで、新たな感情が芽生えます。

（順天堂大学准教授:松山毅先生「まとめ」より）

新たな原動力へ！

平成 28 年 2 月 11 日（木・祝）　ミレニアムセンター佐倉

第 2 分科会『若い力』会場

実行委員長
住吉アキ子さん

副実行委員長
塩田倬雄さん

はさみ細工で風車を作りました。

千代紙で作ったお雛様

昼食づくり協力：積善会・真野初枝さんと有志の方

新聞紙でエコバック作り

簡易コンロづくり（むぎの会）

進行を見守る人、記録を取る人、思わぬ出来事に対応する人、みんな真剣です！

会場作りもスピーディーです！

ホッと一息、まぜご飯と豚汁で、心も体もにっこり！

7 月から 6 回にわたり実行委員会を開催

2 月 11 日（木・祝）の「第 34 回ボランティアのつどい」は、200 名を越える多くの参加者を得て、無事に終わることができましたことを心より感謝いたします。会場はミレニアムセンター佐倉の 2 階から 4 階を使い様々なプログラムを同時に展開いたしました。実行委員さんたちが知恵を絞り、地区社協をはじめ会員外の多くの団体・個人の協力を得、参加された方々が体験し、今の生活を見直すプログラムとしました。

多くの方から「参加してよかった」「楽しかった」などの感想をいただきました。一方、運営の不手際（パワーポイントの映写や会場の照明など）に対するご意見もありました。こうした皆さんの意見を踏まえ、次回のボランティアのつどい（和田ふるさと館）を準備いたします。